

# 『最高の「商い」をデザインする方法』より

## 第2回 持続可能な街づくり(後編)

《寄稿》

(株)商い創造研究所代表

松本大地

本を書くにつれ、次世代の商いは持続可能な社会に向けた社路整備、居住環境整備、会価値をつくり、活力を第1ステップとすや希望を未来に繋ぐるならば、現在は太陽光や風力発電といった自然エネルギー導入や自転車専用道の整備、グリーンビルディング、リサイクル、リユースの資源再生と経済発展の両輪や利用促進、地産地消が欠かせないことを強く論じました。後、加藤市長の理念である持続可能な市民自治のまちの実現に不可欠な行政と市民の在り方を綴ります。

著書では持続可能な社会を説き、環境共生と経済発展の両輪や利用促進、地産地消を促進するファーマ強く論じました。後、加藤市長の理念である持続可能な市民自治のまちの実現に不可欠な行政と市民の在り方を綴ります。

ポータルランドでは行政と市民が一体となった積極的な街づくりが進められています。ポータルランドでは、1970年代からスタ

ポータルランドでは行政と市民が一体となった積極的な街づくりが進められています。ポータルランドでは、1970年代からスタ

ポータルランドでは行政と市民が一体となった積極的な街づくりが進められています。ポータルランドでは、1970年代からスタ

ポータルランドでは行政と市民が一体となった積極的な街づくりが進められています。ポータルランドでは、1970年代からスタ

ポータルランドでは行政と市民が一体となった積極的な街づくりが進められています。ポータルランドでは、1970年代からスタ

ポータルランドでは行政と市民が一体となった積極的な街づくりが進められています。ポータルランドでは、1970年代からスタ

ポータルランドでは行政と市民が一体となった積極的な街づくりが進められています。ポータルランドでは、1970年代からスタ

ルですが、ポータルランドでは街づくりへの積極的な議論がなされません。

市議会議員のような役割を近隣組合が担うことで、市議会議員数が4名でも機能しているのです。

（第3回は、

本日の市民自治  
持続可能な街へ  
中に掲載予定。  
※次回は8月

本日の市民自治  
持続可能な街へ  
中に掲載予定。  
※次回は8月

本日の市民自治  
持続可能な街へ  
中に掲載予定。  
※次回は8月

本日の市民自治  
持続可能な街へ  
中に掲載予定。  
※次回は8月

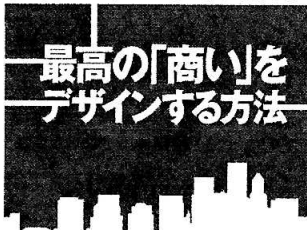
本日の市民自治  
持続可能な街へ  
中に掲載予定。  
※次回は8月

本日の市民自治  
持続可能な街へ  
中に掲載予定。  
※次回は8月

本日の市民自治  
持続可能な街へ  
中に掲載予定。  
※次回は8月

本日の市民自治  
持続可能な街へ  
中に掲載予定。  
※次回は8月

本日の市民自治  
持続可能な街へ  
中に掲載予定。  
※次回は8月



定住、交流人口と地域経済循環増に繋がるファーマーズマーケット

**松本大地**  
(まつもと・だいち)

1952年神奈川県生まれ。山一証券、鈴屋、丹青社、SCマーケティング研究所所長を経て、2007年7月「人と街と商いの新しいリンクージ」をテーマに(株)商い創造研究所を創立、代表取締役役に就任。全国各地の街づくりプロジェクトに参画、小田原ダイヤ街商店会コンサル、小田原十郎梅ブランドプロデュース他実績多数。FMおたわらで街づくりトーク番組「松本大地の商い創造研究所」を担当。著書に『最高の「商い」をデザインする方法』(エクスナレッジ出版)がある。

